

Plan S : 原則と運用

林, 豊
九州大学附属図書館eリソース課システム企画係

<https://hdl.handle.net/2324/2197535>

出版情報 : The Journal of Information Science and Technology Association. 69 (2), pp.89-93,
2019-02-01. Information Science and Technology Association Japan

バージョン :

権利関係 :

Plan S：原則と運用

林 豊*

キーワード：cOAlition S, Plan S, オープンアクセス義務化, 助成機関, ハイブリッドオープンアクセス

1. はじめに

日本で“平成最後”が飛び交う一年、世界のオープンアクセス(OA)関係者をもっとも騒がせたのは欧州に落下した“Plan S”という“彗星”だろう。まだまだ議論がアクティブに続いている状態ではあるが、2018年末までで区切りをつけて一連の動向を整理してみたい。

2. cOAlition S/Plan S

2018年9月4日、欧州で完全・即時のOAを目指すコンソーシアムcOAlition Sが誕生した¹⁾。Science Europeのコーディネートのもと、欧州委員会(EC)と欧州研究評議会(ERC)の支援を受け²⁾、英国やオランダを含めた欧州の11の公的助成機関が立ち上げたものである。11機関の助成総額は年間約76億ユーロとされる³⁾。その後、公的助成機関としてAcademy of Finland(フィンランド)とFORTE(スウェーデン)が、慈善団体としてWellcome Trust(英国)、Bill & Melinda Gates Foundation(ゲイツ財団)(米国)、Riksbankens Jubileumsfond(スウェーデン)が加わっている⁴⁾。

cOAlition Sの打ち出した計画はPlan Sと呼ばれており、手始めに1つの目標と10の原則を発表した⁵⁾。目標は「2020年1月1日以降、公的助成を受けた研究成果出版物は、Plan Sに準拠したOAジャーナルないしOAプラットフォームで公開しなければならない」というものだが、字面だけではその凄さが分からない。原則のほうを見てみよう(翻訳は筆者による)。

3. 10の原則

- ① 著者は無制限の著作権を留保する。全ての出版物はオープンライセンス(CC BYが望ましい)で出版されなければならない。あらゆる場合において、当該ライセンスはベルリン宣言の条件を満たす必要がある。
- ② 助成機関は高品質なOAジャーナル及びOAプラットフォーム

フォームの提供するサービスが満たすべき確固たる基準及び要件を協同で確立する。

- ③ 高品質なOAジャーナルやOAプラットフォームが存在しないのであれば、助成機関は連携してその構築を奨励し、支援する。必要があれば、支援はOAインフラストラクチャーに対しても行われる。
- ④ OA出版料は研究者個人ではなく、助成機関や大学によって負担される。機関の負担が限定されている場合でも、全ての研究者が研究成果をOAで出版可能であるべきだと認められる。
- ⑤ OA出版料に対する助成には標準と上限が設けられる(欧州全体で)。
- ⑥ とりわけ透明性の担保のため、助成機関は、大学、研究機関、図書館に対して、ポリシー及び戦略を整合させることが求められる。
- ⑦ 上記原則は全ての学術出版物に適用されるが、単行書や図書のOAの実現が2020年1月1日以降になりうることは了解されている。
- ⑧ 長期保存及び編集に関するイノベーションの観点から、研究成果をオープンアーカイブズ及びリポジトリに搭載することの重要性は認識されている。
- ⑨ ハイブリッドモデルは上記原則に適合しない。
- ⑩ 助成機関は原則の履行状況をモニタリングし、違反に対しては罰則を課す。

つ、強気だ……。Plan Sに署名した助成機関、そしてそういった助成機関から助成を受けた研究者は、10の原則を守る必要が出てくる。

原則で興味を引くところはいろいろあるのだが、Plan SをPlan Sたらしめている最大の特徴は、①(著作権の保持)と⑨(ハイブリッドOAの否定)である。①によってエンバーゴが消滅し、出版後の即時OA実現が可能となる。また⑨によって、助成を受けた研究者は購読型ジャーナルで論文を発表することができなくなる。

ここで「ん？グリーンOAはどうなっているの？」と引っかかる方も多いだろう。たとえ購読型ジャーナルに論文を発表したとしても、著者最終稿を機関リポジトリで公開すれば良いのではないかと(それでもゼロエンバーゴ&CC BY付与という出版社にとって難しい要求もあるのだが)。ただ、一応リポジトリにも言及されているものの(⑧)、

*はやし ゆたか 九州大学附属図書館 eリソース課システム企画係
〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744
E-mail: hayashi.yutaka.927@m.kyushu-u.ac.jp
orcid.org/0000-0001-7761-3444 (原稿受領 2018.12.10)

Plan S のグリーン OA に対するスタンスはいまいち曖昧なのだった⁷⁾、この原則の時点では。

Plan S が DORA (研究評価に関するサンフランシスコ宣言) への署名について言及している点にも注目したい⁸⁾。端的に言えば、どのジャーナルに掲載されたかではなく論文の内容そのものを評価すべきというものである。ハイブリッド OA の否定との合わせ技であろう。

4. 反響

こんな強気な原則に対して、激しい反響が巻き起こらないはずがない。とてもそのすべてをフォローすることはできないが、主要なものだけでも簡単に紹介したい。

4.1 出版社 (商業出版社, 学会)

(グリーン OA を枠外に置けば) ハイブリッド OA の否定は購読型ジャーナルの否定とイコールなので、OA 専業ではない商業出版社の反応は自明であろう。国際 STM 出版社協会⁹⁾、Elsevier、Springer Nature¹⁰⁾、AAAS (Science の出版元)¹¹⁾等から批判の声が上がっている。OASPA (OA 学術出版協会) は基本的には賛意を示しつつも、購読型ジャーナルの否定により APC を支出できない研究者が論文発表機会を失うことや、学会や小規模出版社での対応可能性等を懸念している¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。他に興味深い反応では、「ハイブリッドがだめならミラージャーナルに出せば良いじゃない¹⁵⁾」という話もあった (5.2 で後述するように、Plan S の Implementation Guidance では否定されている)。

4.2 研究者

伝統ある評価の高い購読型ジャーナルへの論文掲載は研究者としての高い評価に直結することから、その否定は研究者にとってもスルーできる話ではない。ジャーナルの投稿先¹⁶⁾に口を出すことは「学問の自由」を犯していると批判するウプサラ大学の生化学者 Lynn Kamerlin らによる署名に対して、1,600 人超の賛同が集まっている¹⁷⁾¹⁸⁾¹⁹⁾。一方、カリフォルニア大学バークレー校の生物科学者であり PLOS の共同設立者でもある Michael Eisen は、Plan S の支持を謳い、多数の研究者を含む 1,900 名近くの署名を集めている²⁰⁾²¹⁾。また、ALLEA (ALL European Academies) は、若手研究者のキャリアへの影響を懸念し、完全 OA への移行においては研究評価システムの再構築をも同時に進めていく必要があるとしている²²⁾。Plan S が単なる研究成果の公表方法に留まらず、DORA を採用して研究評価にまで踏み込んできたのは、こういった旧来型の評価システムを解体したい (解体しなければ OA 推進は難しい) という意思の表れだろう。

4.3 リポジトリコミュニティ

Harnad 先生²³⁾は平常運転。COAR²⁴⁾ (オープンアクセスリポジトリ連合) や OpenAIRE²⁵⁾は、原則では曖昧な位置づけをされている OA リポジトリの活用を求めている。

「欧州の方針や実践は他の地域に影響を与える」「地域・国の事情 (APC の負担が困難な発展途上国がある) を考慮すべき」という意見には COAR らしさが表れている。

4.4 人文学分野の立場

欧州の DARIAH (Digital Research Infrastructure for the Arts and Humanities)²⁶⁾は、人文学分野の立場から、Plan S の STEM 分野偏重を諫め、Jussieu call for Open science and bibliodiversity²⁷⁾²⁸⁾を引き合いに出しつつ、OA を実現するためのモデルの多様性を訴えている。例えば、人文学分野では研究資金の大部分は助成によって賄われているわけではないため、グリーン OA あるいはゴールド OA でも APC 著者支払いモデル以外のほうが適切だとしている。また、単行書についても言及し、学位取得者を対象とする博士論文の OA 図書出版の助成を推奨している。

4.5 助成機関

DFG (ドイツ)²⁹⁾や Swiss National Science Foundation (スイス)³⁰⁾のように、Plan S 支持を表明しながら署名には至っていない助成機関も存在する。他方、自前で OA プラットフォームを立ち上げるほど強力な OA 推進者であるゲイツ財団と Wellcome Trust は Plan S に署名している³¹⁾。ゲイツ財団のポリシー (2017 年 1 月以降適用) は現時点でも即時 OA を要求する強力なものであるが、Plan S に合わせた改訂を検討中だという。Wellcome Trust は署名に併せて新しい OA ポリシー (2020 年 1 月以降適用) を発表した³²⁾。旧ポリシーからの主な変更点は、

- 即時 OA (現在は 6 か月間エンバーゴの許容)
- CC BY で公開 (現在は APC 助成を受けた場合のみ)
- ハイブリッド OA への APC 助成は行わない
- プレプリントを CC BY で公開 (一部の場合)
- 助成を受けた研究機関は DORA に署名³³⁾

の 5 点である。新ポリシーについてのインタビューでは Robert Kiley 氏が “We no longer believe it's a transition” とハイブリッド OA に三行半を叩きつけている³⁴⁾。

5. 運用指針

残響鳴り止まぬなか、2018 年 11 月 27 日、Plan S が待望の Implementation Guidance (運用指針) を公表した³⁵⁾。Plan S は特に対象を限定しているわけではないが、今回のこのスコープは学術論文 (scholarly articles) としている。

以下の通り、Implementation Guidance は全 11 章で構成される (翻訳は筆者による)。

- ① 目的と範囲
- ② コンプライアンス
- ③ 出版コスト
- ④ 高品質な OA ジャーナル及びプラットフォームに対する支援
- ⑤ タイムライン
- ⑥ 検証
- ⑦ コンプライアンスと罰則

- ⑧ ライセンシングと権利
- ⑨ OA ジャーナル及びプラットフォーム
- ⑩ OA リポジトリへの学術コンテンツの登録
- ⑪ 転換契約 (Transformative Agreements)

5.1 原則からの変更点

もっとも重要な点は、②でOAリポジトリでの公開という方法が明記されるとともに³⁶⁾、条件付きで購読型ジャーナルでの出版(ハイブリッドOAでの公開)が許容されたことである。後者に関しては、原則に対する反響を受けて妥協したと見て良いだろう。⑪によると、購読型ジャーナルに課せられる条件は、2021年末までに、いわゆるオフセットモデルやRead & Publishモデル³⁷⁾のような契約を結ぶこと、ただし、契約の詳細を公開すること、契約期間は最長3年とすること、契約終了後にフルOAジャーナルに移行(flip)するシナリオが含まれていること、というものである。

また、⑧では、CC BY だけではなくCC BY-SAとCC 0がライセンスの選択肢として追加されている。

Implementation Guidanceでの変更を含めてPlan S 準拠の公開方法を整理した表が参考になるだろう³⁸⁾。

5.2 OA ジャーナル/OA プラットフォームに対する条件

⑨では、原則の②では明記されていなかったOAジャーナル及びOAプラットフォームの満たすべき基準が示されている。

まず、必須項目として14件³⁹⁾が挙げられている。その中には、DOAJへの登録、当該分野の水準や出版倫理委員会(COPE)の基準に従った査読システムの存在、永続的識別子としてのDOIの使用といった基本的なものから、テキストマイニング対応(XML等の機械可読形式による本文の提供)といったそれなりに追加投資を要するものもある。APC助成金額の具体的な上限値はまだ示されていない(③では別途調査を行う予定だとされている)が、コストや価格設定の透明性に関する要件も含まれている。また、APC著者支払いモデルへの批判に対応するものだろう、低所得国の著者に対する免除や中所得国に対する割引の提供という条件もある。なお、ミラージャーナルはハイブリッドOAと実質的に同等であるという理由から認められていない。

その他、推奨項目として、永続識別子(著者、助成情報、機関等)のサポート等の3件が挙げられている。

5.3 OA リポジトリに対する条件

OAリポジトリでの公開に関する条件については、⑩で述べられている。

まず、著者と出版社に対する必須項目が6件挙げられている。基本的には、出版社版(VoR)または著者最終稿(AAM)を、出版後即時に(ゼロエンバゴで)、著作権を保持したままCC BY(またはCC BY-SAかCC 0)で公開することが求められている。この条件を(無料で)呑んで

くれる出版社は存在するのだろうか(存在しなければ、現実的にPlan SでグリーンOAというルートは成立しなくなる)。

地味な点だが、出版社に対してSHERPA/RoMEOへの著作権ポリシー登録を要求してくれているのはリポジトリ担当者としては嬉しいかぎりである。SHERPA/RoMEOに掲載されていない/掲載された情報が古くて、結局は出版社のサイトをチェックしなくてはいけないという面倒が減るし、SHERPA/RoMEO APIを活用した登録作業の効率化が図れる。

次いで、OAリポジトリに対する必須項目が8件挙げられている。OpenDOARへの登録は当然としても、「原稿の自動収集機能」(Jisc Publications Router⁴⁰⁾のようなイメージだろうか。出版社による本文ファイルの提供が前提となるだろう)や、テキストマイニングのための「Journal Article Tag Suite (JATS) 相当のXML形式での本文搭載」という条件はかなり厳しい。現時点でこれらを満たすようなリポジトリシステムは存在するのだろうか(PMC?)⁴¹⁾。これに対してCOARは、上記2点を含めた要件の一部は、堅牢で相互運用可能なリポジトリの実現において必須とは言えず、学術コミュニケーションへの参入障壁を生じ、現在そうであるように特定のプレイヤーへの集中を繰り返すだけだと主張し、要件の削除、改訂、あるいは必須項目から推奨項目への変更を強く提案している⁴²⁾。

6. おわりに

Plan SのImplementation Guidanceに対するフィードバック募集は、2019年2月8日まで行われる予定である。原則の具体的な運用方法を示したImplementation Guidanceの時点でもまだまだ記述が曖昧な箇所があるし、求められている水準が高すぎて実現可能性にクエスチョンが浮かぶところもある。関係者からはさっそく詳細な批判が始まっているが⁴³⁾、今後も続々と声が挙がることだろう。

欧州で生まれたPlan Sが地域を超えて世界中に広がっていくかどうか注目される。その点で、中国の国家科学図書館(NSL)、国家科技図書館文献中心(NSTL)、そして助成機関である国家自然科学基金委員会(NSFC)が14th Berlin Open Access ConferenceにおいてPlan Sへの支援を表明したというニュースは無視できない^{44/45)}。

今回、Plan Sをめぐる議論をひとつひとつフォローしながら、OAには(というよりも学術研究には)単一のシンプルモデルへの収斂ではなく多様性が不可欠であること、そしてアクセスの問題と研究評価を切り離して考えられないことに改めて思いを巡らせた。Plan Sの「購読ジャーナルの否定」という強引さにNoを唱えても、ジャーナルプライスの終わらない高騰を是とする研究者はいないだろう。大事なのは学術コミュニケーションの主役たる研究者自身がこの問題をどうしていきたいのかという意志と覚悟だと考えている。その意味で、このように広範なステークホルダーから危機感に溢れた意見が飛び交っているのは

とても健全なあり方だと感じる。

註・参考文献

- 1) 'Plan S' and 'cOAlition S' – Accelerating the transition to full and immediate Open Access to scientific publications. <https://www.coalition-s.org/>, (accessed 2018-12-10).
- 2) cOAlition S: Making Open Access a Reality by 2020. Plan S. 2018-09-04. <https://www.coalition-s.org/coalition-s-launch/>, (accessed 2018-12-10).
- 3) 助成機関として EC は Plan S に署名しているわけではないが、その助成プログラム Horizon 2020 (2014-2020, 総額約 800 億ユーロ) の後継である Horizon Europe (2021-2027) は、ハイブリッド OA に対する APC 助成を行わないというスタンスのようである。
Najla Rettberg. The worst of both worlds: Hybrid Open Access. OpenAIRE. 2018-06-26. <https://www.openaire.eu/blogs/the-worst-of-both-worlds-hybrid-open-access>, (accessed 2018-12-10)
- 4) Martin Enserink. European science funders ban grantees from publishing in paywalled journals. Science. 2018-09-04. <https://www.sciencemag.org/news/2018/09/european-science-funders-ban-grantees-publishing-paywalled-journals>, (accessed 2018-12-10).
- 5) Funders and Supporters. 'Plan S' and 'cOAlition S'. <https://www.coalition-s.org/funders-and-supporters/>, (accessed 2018-12-10).
- 6) 10 Principles. 'Plan S' and 'cOAlition S'. <https://www.coalition-s.org/10-principles/>, (accessed 2018-12-10).
- 7) 例えば Peter Suber は「But a section elucidating this principle damns green OA with faint praise, endorsing OA repositories only for preservation, not for OA itself」と看破している。
Peter Suber. Thoughts on Plan S. Google+. 2018-09-04. <https://plus.google.com/+PeterSuber/posts/iGEFpdYY9dr>, (accessed 2018-12-10).
- 8) Why Plan S. Plan S. <https://www.coalition-s.org/why-plan-s/>, (accessed 2018-12-10).
- 9) STM statement on Plan S: Accelerating the transition to full and immediate Open Access to scientific publications. International Association of Scientific, Technical and Medical Publishers. 2018-09-04. https://www.stm-assoc.org/2018_09_04_STM_Statement_on_PlanS.pdf, (accessed 2018-12-10).
- 10) Holly Else. Radical open-access plan could spell end to journal subscriptions. Nature. 2018-09-04. <https://www.nature.com/articles/d41586-018-06178-7>, (accessed 2018-12-10).
- 11) Martin Enserink. European science funders ban grantees from publishing in paywalled journals. Science. 2018-09-04. <https://www.sciencemag.org/news/2018/09/european-science-funders-ban-grantees-publishing-paywalled-journals>, (accessed 2018-12-10).
- 12) なお、Plan S を批判する Springer Nature も OASPA のメンバーだが、声明を起草した Board of Directors には含まれていないようだ。
OASPA Offers Support on the Implementation of Plan S. OASPA. 2018-10-02. <https://oaspa.org/oaspa-offers-support-on-the-implementation-of-plan-s/>, (accessed 2018-12-10).
- 13) Leonid Schneider. Robert-Jan Smits: scholarly societies “will have to bite the bullet and go Open Access”. For Better Science. 2018-10-22. <https://forbetterscience.com/2018/10/22/robert-jan-smits-scholarly-societies-will-have-to-bite-the-bullet-and-go-open-access/>, (accessed 2018-12-10).
- 14) Michael Clarke. Plan S: Impact on Society Publishers. Scholarly Kitchen. 2018-12-05. <https://scholarlykitchen.sspnet.org/2018/12/05/plan-s-impact-on-society-publishers/>, (accessed 2018-12-10).
- 15) ミラージャーナルは、ある購読型ジャーナルに対して、編集委員会、対象分野、査読方針等が全く同じフル OA ジャーナルを別タイトルとして刊行するというしくみである。この「ジャーナル」に受理された論文は、著者が OA を希望する場合には (APC を支払って) ミラージャーナルのほうに、そうでない場合にはオリジナルの購読型ジャーナルのほうに掲載される。例えば Elsevier は「Water Research」に対して「Water Research X」というミラージャーナルを刊行している。以下の記事では、ミラージャーナルを使えば、研究者は Plan S によるハイブリッド OA 禁止を回避しつつ、伝統ある購読型ジャーナルと同等の評価を受けることができるのではないかと (2つのジャーナルのインパクトファクターは異なるものになりそうだが) と述べられている。
Angela Cochran. Are Mirror Journals a Better Path to the Open Access Flip? Scholarly Kitchen. 2018-10-29. <https://scholarlykitchen.sspnet.org/2018/10/29/are-mirror-journals-a-better-path-to-the-open-access-flip/>, (accessed 2018-12-10).
- 16) Universities UK の調査によると、2016 年時点でゴールド OA 以外のジャーナルの割合は 84.9% である (Figure 1.1)。Plan S の原則に従えば、これらのジャーナルで出版することができなくなる。
Universities UK. Monitoring the transition to open access: December 2017. 2017-12. <https://www.universitiesuk.ac.uk/policy-and-analysis/reports/Documents/2017/monitoring-transition-open-access-2017.pdf>, (accessed 2018-12-10).
- 17) Plan S Open Letter - Open Letter. <https://sites.google.com/view/plansopenletter/open-letter>, (accessed 2019-01-15).
- 18) Leonid Schneider. Response to Plan S from Academic Researchers: Unethical, Too Risky! For Better Science. 2018-09-11. <https://forbetterscience.com/2018/09/11/response-to-plan-s-from-academic-researchers-unethical-too-risky/>, (accessed 2018-12-10).
- 19) Tania Rabesandratana. Open-access plan draws online protest. Science. 2018-11-08. <http://www.sciencemag.org/news/2018/11/open-access-plan-draws-online-protest>, (accessed 2018-12-10).
- 20) Open Letter in Support of Funder Open Publishing Mandates. <http://www.michaeleisen.org/petition>, (accessed 2019-01-15).
- 21) @mbeisen. Twitter. 2018-11-29. <https://twitter.com/mbeisen/status/1067918429347176448>, (accessed 2019-01-15).
- 22) Systemic reforms and further consultation needed to make Plan S a success. ALLEA. 2018-12-12. <https://www.allea.org/systemic-reforms-and-further-consultation-needed-to-make-plan-s-a-success/>, (accessed 2018-12-21).
- 23) Steven Harnad. Open Access: “Plan S” Needs to Drop “Option B”. Open Access Archivangelism. 2018-09-14. <http://openaccess.eprints.org/index.php?archives/1205-Open-Access-Plan-S-Needs-to-Drop-Option-B.html>, (accessed 2018-12-10).
- 24) COAR's response to Plan S. COAR. 2018-09-12. <https://www.coar-repositories.org/news-media/coars-response-to-plan-s/>, (accessed 2018-12-10).
- 25) Plan S: A European Open Access Mandate. OpenAIRE. 2018-10-05. <https://www.openaire.eu/plan-s-a-european-open-access-mandate>, (accessed 2018-12-10).
- 26) Towards a Plan(HS)S: DARIAH's position on PlanS.

- DARIAH-EU. 2018-10-25.
<https://www.dariah.eu/2018/10/25/towards-a-planhss-dariahs-position-on-plans/>, (accessed 2018-12-10).
- 27) Jussieu Call for Open science and bibliodiversity.
<https://jussieucall.org/jussieu-call/>, (accessed 2018-12-10).
- 28) Jussieu Call は 2018 年 12 月開催の 14th Berlin Open Access Conference でも、Plan S や OA2020 と併せて言及されている。
 Final Conference Statement: 14th Berlin Open Access Conference. Open Access 2020.
<https://oa2020.org/b14-conference/final-statement/>, (accessed 2018-12-10).
- 29) Stellungnahme der DFG zur Gründung von “cOAlition S” zur Unterstützung von Open Access. DFG. 2018-09-04.
http://www.dfg.de/foerderung/info_wissenschaft/2018/info_wissenschaft_18_56/index.html, (accessed 2018-12-10).
- 30) Open access to publications: the SNSF supports Europe’s Plan S. Swiss National Science Foundation. 2018-09-04.
<https://www.vr.se/english/justnow/news/thetransfertoopen-accessshouldtakeplaceasoonasitispossible.5.30d42bf1659263a4d934c.html>, (accessed 2018-12-10).
- 31) Wellcome and the Bill & Melinda Gates Foundation join the Open Access coalition. Wellcome Trust. 2018-11-05.
<https://wellcome.ac.uk/press-release/wellcome-and-bill-melinda-gates-foundation-join-open-access-coalition>, (accessed 2018-12-10).
- 32) Wellcome is updating its open access policy. Wellcome Trust. 2018-11-05.
<https://wellcome.ac.uk/news/wellcome-updating-its-open-access-policy>, (accessed 2018-12-10).
- 33) 正確には、ジャーナルや出版社ではなく研究の中身そのものを基準とした評価を行うことが要求されており、それを証明する手段として DORA や Leiden Manifesto for Research Metrics 等への署名が例示されている。
 Leiden Manifesto for Research Metrics.
<http://www.leidenmanifesto.org/>, (accessed 2018-12-10).
- 34) Erik Stokstad. In win for open access, two major funders won’t cover publishing in hybrid journals. Science. 2018-11-05.
<https://www.sciencemag.org/news/2018/11/win-open-access-two-major-funders-wont-cover-publishing-hybrid-journals>, (accessed 2018-12-10).
- 35) From Principles to Implementation: cOAlition S Releases Implementation Guidance on Plan S. Plan S. 2018-11-27.
<https://www.coalition-s.org/implementation-guidance-on-plan-s-now-open-for-public-feedback/>, (accessed 2018-12-10).
- 36) “Within this new guidance, we are pleased to see that the green route to Open Access has been acknowledged as we believe there is no single route to Open Access.” と歓迎されている。
 LIBER Open Access Working Group: Statement on Plan S Guidelines. LIBER. 2018-12-06.
<https://libereurope.eu/blog/2018/12/06/liber-statement-plan-s-guidelines/>, (accessed 2018-12-10).
- 37) オフセットモデルや Read & Publish モデルについては以下の文献が詳しい。
 小陳左和子, 矢野恵子. ジャーナル購読からオープンアクセス出版への転換に向けて: 欧米の大学および大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) における取り組み. 大学図書館研究. 2018, 109. <https://doi.org/10.20722/jcul.2015>, (accessed 2018-12-10).
- 38) Utrecht University Library. Plan S implementation: information & discussion meeting. 2018-12-17.
<http://tinyurl.com/plansuu>, (accessed 2018-12-21).
- 39) 箇条書きで挙げられているのは 13 項目だが, DOAJ 登録も含めて 14 項目とした。
- 40) 花崎佳代子. 研究助成機関によるオープンアクセス義務化への大学の対応—英国の事例—. カレントアウェアネス. 2017, (332), CA1903, p.26-32. <http://current.ndl.go.jp/ca1903>, (accessed 2018-12-10).
- 41) @RickyPo. Twitter. 2018-11-29.
<https://twitter.com/RickyPo/status/1067800492233957376>, (accessed 2018-12-10).
- 42) COAR’s response to draft implementation requirements in Plan S. COAR. 2018-12-13.
<https://www.coar-repositories.org/news-media/coars-response-to-draft-implementation-requirements-in-plan-s/>, (accessed 2018-12-21).
- 43) Angela Cochran. Plan S: A Mandate for Gold OA with Lots of Strings Attached. Scholarly Kitchen. 2018-12-07.
<https://scholarlykitchen.sspnet.org/2018/12/07/plan-s-a-mandate-for-gold-oa-with-lots-of-strings-attached/>, (accessed 2018-12-10).
- 44) Quirin Schiermeier. China backs bold plan to tear down journal paywalls. Nature. 2018-12-05.
<https://www.nature.com/articles/d41586-018-07659-5>, (accessed 2018-12-10).
- 45) Rachael Pells. Chinese support for Plan S ‘major blow’ to opponents. Times Higher Education. 2018-12-17.
<https://www.timeshighereducation.com/news/chinese-support-plan-s-major-blow-opponents>, (accessed 2018-12-21).

Series: Current trend of open science: Plan S: Principles and Implementation. Yutaka HAYASHI (System Planning Section, Electronic Resources Management Division, Kyushu University Library, 744 Motooka Nishiku Fukuoka 819-0395, JAPAN)

Keywords: cOAlition S / Plan S / Open Access Mandate / Research Funder / Hybrid Open Access